

yui 「結」の場

—さまざまな'結び=交流'を生み出す、こどものための場—



敷地南西よりの全景

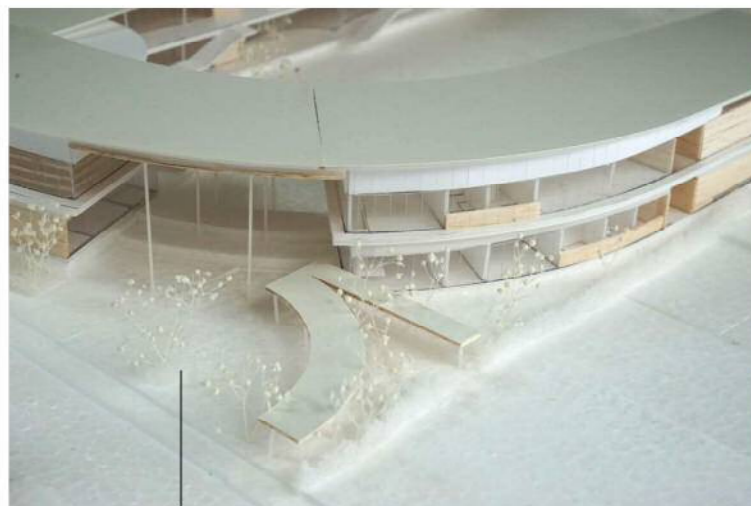


保育園クラスルーム



結び・1—まちと施設を結びます。

施設エントランス前に小さな広場、ポケットパークの'ともだち広場'を計画します。保育園の保護者の方々のおよとしたおしゃべりの場であると共に、ゆめみかん、その他各種行政施設にいられた方々の憩いの場、または、周辺住民の方々の集いの場となります。こども関連施設にあまり関係のない方々も憩える、集える場所をオープンな位置に設置することによって、いろいろな人々が集い、語り、自然と交流が生まれる場所を計画します。そして、施設の安全性にはもちろん十分に配慮しながらも、明るく、オープンな施設とするため、共通のエントランス空間として、大きな屋根の軒下空間、'ともだちゲート'を計画します。施設内の様子が外からもうかがい知ることができ、まちと、施設を結び交流を生みます。



まちのポケットパーク、「ともだち広場」



エントランスの軒下空間、「ともだちゲート」

結び・2—交流の輪が広がるよう、異なる年齢のこどもたちを結びます。

今回のプロジェクトの特徴の一つとして、保育園と児童センターが隣接して計画されている事が挙げられます。この場所が、八幡浜市の子育て支援の核となる事が予測され、0歳から18歳のこどもたちが集う施設となります。その特徴を生かすべく、2つの施設をグラウンドを挟んで南北に配置し、ガラスによる明るい開口部を大きくとる事によってお互いが'明るい、見える施設'とすることによって異なる年齢の交流の輪が広がるような施設とします。また、フェンス等によって仕切りは設けられる予定ですが、大きな、一体となったグラウンドでも交流の輪が広がります。



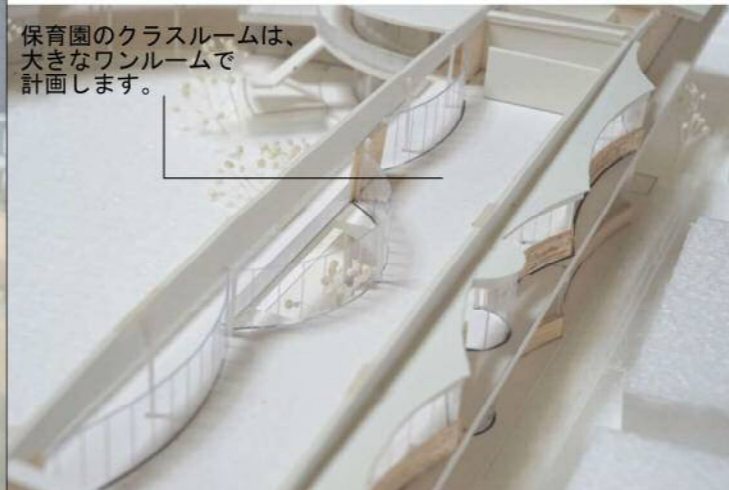
ともだちゲート周辺では、2棟の距離も近く、お互いが、見える施設となります。



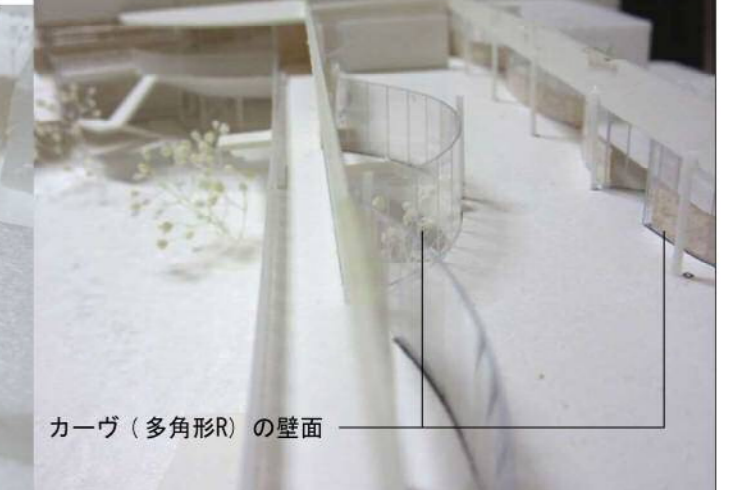
園庭、グラウンドを介して、異なる年齢交流が生まれます。

結び・3—多様な結び（人間関係）を醸成できるクラスルームとします。

保育所のクラスルームは、いろいろな形で利用可能な**大きなワンルームタイプのクラスルーム**を計画します。大きな一体の空間は、緩やかにカーヴした高い木の天井と相まって、おおらかにこどもたちを包み込みます。大きなワンルームのクラスルームならば、異年齢保育等も可能となります。また、大きな空間を家具・什器、可動間仕切り等で仕切れば、一般的な各年齢ごとのクラスルームとしても利用できます。そして、時として、こどもの人数が少人数となった状態でも、その人数にあった空間に変化させることが可能です。クラスルームの壁面は、多角形Rのカーヴを描く壁とします。大きなワンルームタイプですと、壁が直線で構成された場合、どうしても単調な印象となり、空間が均質なものとなります。カーヴを描く壁の場合、広い部分、狭い部分等空間に抑揚が生まれ、不均質で変化に富む空間が生まれます。広い部分では走り回ったり。狭い部分では、ひそひそ話をしたりなど、こども達にも多様な活動を喚起し、その中で多様な人間関係が醸成される、そのような空間を目指します。



保育園のクラスルームは、大きなワンルームで計画します。



カーヴ（多角形R）の壁面

使い勝手の良い施設とします。

配置計画

- ・駐車場は敷地南に隣接して計画されている 駐車場と一体整備し、まとまりのある、使い勝手の良い駐車場計画とします。
- ・通用口に隣接して、搬入用駐車場を 設けます。
- ・雨の日の動線を考慮し、駐車場から ともだちゲートまでの間に屋根つきの歩道を整備します。
- ・子どもが集まる施設である事を考え、歩車分離を徹底します。道路沿い、駐車場沿いに歩道を計画し、安全に通行できるようにします。

安全な建物を計画します。

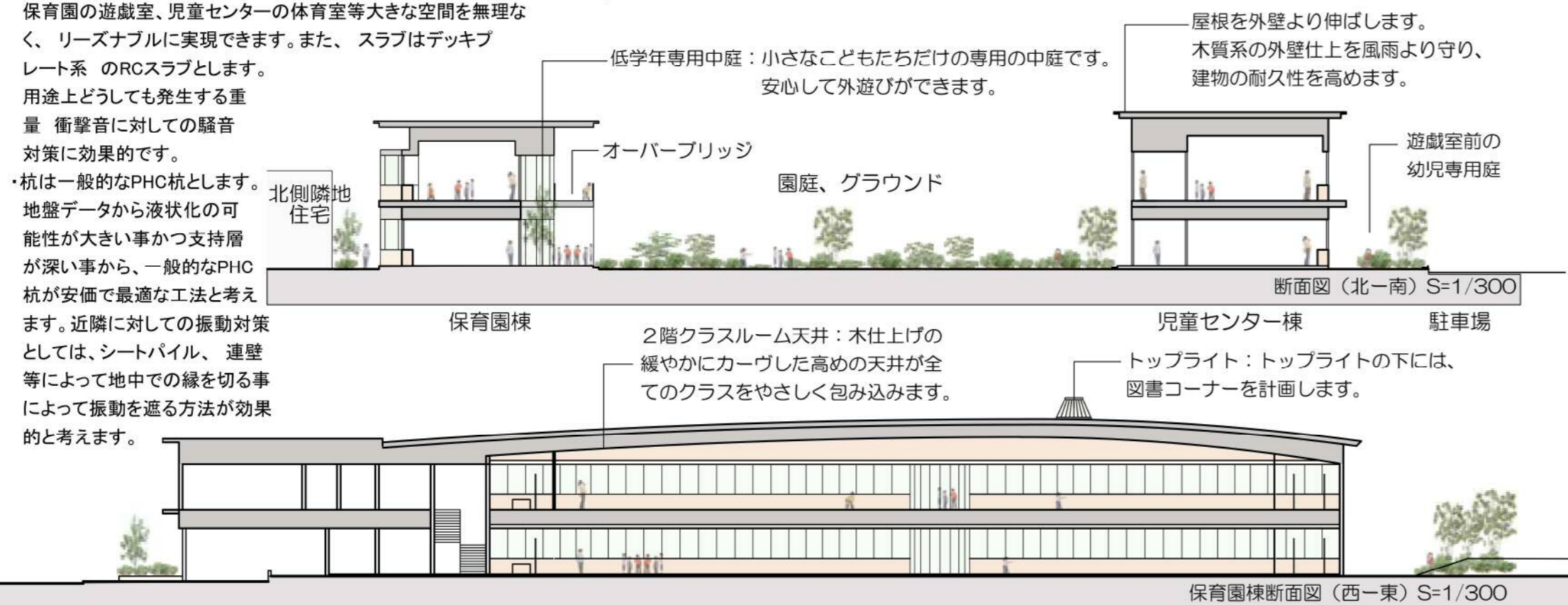
中庭型園舎

- ・児童センターと保育園で園庭・グラウンドを取り囲む形となり、外部からの侵入者に対して守りの硬い中庭型園舎の形式となります。出入口はともだちゲートからのみとなり、保育園、児童センター両方の職員室からのダブルチェック ができます。



鉄骨造・耐火建築物とします。

- ・用途、規模、コスト、地盤データ、等を総合的に考え、鉄骨造の耐火建築物仕様とします。(保育園、児童センター共) 保育園の遊戯室、児童センターの体育室等大きな空間を無理なく、リーズナブルに実現できます。また、スラブはデッキプレート系のRCスラブとします。用途上どうしても発生する重量 衝撃音に対しての騒音対策に効果的です。
- ・杭は一般的なPHC杭とします。地盤データから液状化の可能性が大きい事かつ支持層が深い事から、一般的なPHC杭が安価で最適な工法と考えます。近隣に対しての振動対策としては、シートパイル、連壁等によって地中での縁を切る事によって振動を遮る方法が効果的と考えます。



木材を積極的に活用します。

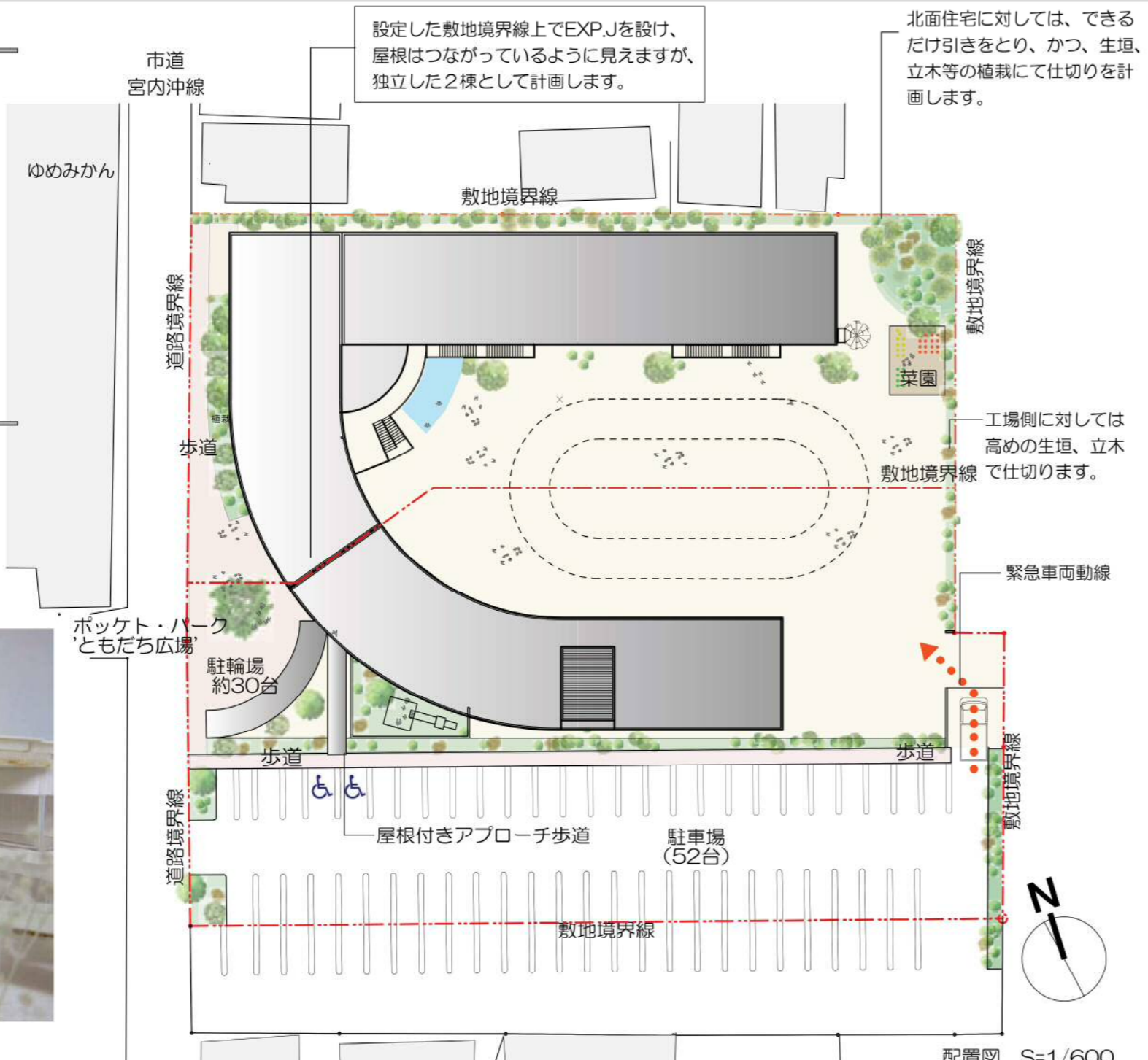
内外装仕上材に木材を活用

- ・内外装ともに木の仕上材を積極的に活用します。建物の躯体自体は、鉄骨造・耐火建築物ですので、木造建築と変わらぬ木のぬくもりのある空間を、スマートに、無理なく実現できます。コスト的にも、木質空間を実現するためには、**鉄骨耐火+内外装木仕上げ**が現実性の最も高い工法と考えます。



コスト(建設時、ライフサイクル)を下げる工夫を行います。

- ・2棟共に鉄骨造躯体の基準スパンを8mx6mに設定しています。無理の無い経済スパンで、コスト削減に寄与します。
- ・保育棟の曲面壁は多角形Rで計画します。曲面ガラスではなく、一般ガラスですので、コスト的に無理なく実現できます。
- ・大きな屋根を利用して、雨水を集水し、中水として庭木散水、トイレ洗浄用水として活用します。
- ・2棟共に南面し、ガラス開口部が大きいので、日中の照明負荷の低減に寄与できる配置計画となっています。
- ・2棟共に屋根を外壁から出し、庇としています。採光を確保しながらも日射による空調負荷の低減に寄与しています。また、外壁を風雨から守ることができ、耐久性を上げる効果が期待できます。



明るく、親しみのある施設とします。

明確なゾーニング

- ・2棟共に片廊下型の施設で、保育園の方は外廊下タイプの園舎としています。もっともオーソドックスで、利用しやすい、わかりやすい形のプランとしています。また、1階は低年齢園児、2階は高年齢園児の教室としています。

南面した明るい施設

- ・2棟共に南からの採光を十分に確保できるよう、教室、諸室は南に面して配置し、明るい施設としています。

外からも見える化した諸室

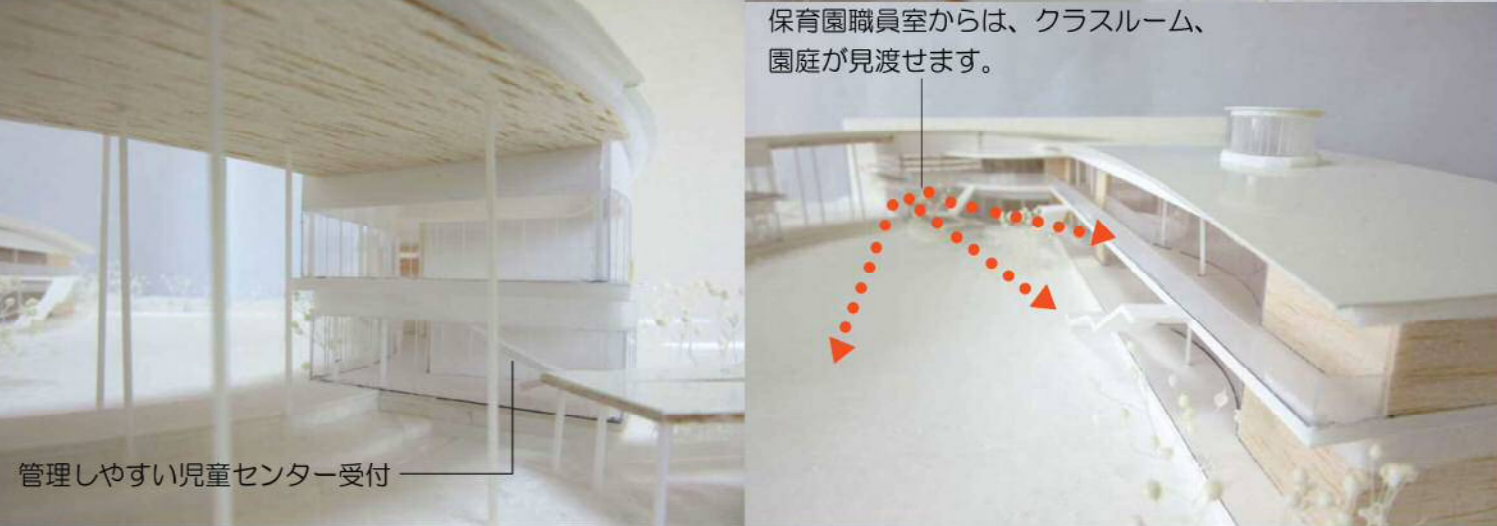
- ・保育園の遊戯室(安全対策として衝突防止用木ルーバーを開口部に設置)、児童センターの遊戯室、図書室、集会室をガラス開口部を大きくとって、道路からでも中の活動がうかがい知れるように見える化します。中の活動が見える化することによって閉ざされた施設ではなく、オープンで開放的なイメージの施設となり、街を行く方々にも興味を持ってもらえる、親しみを感じてもらえるような、施設とします。

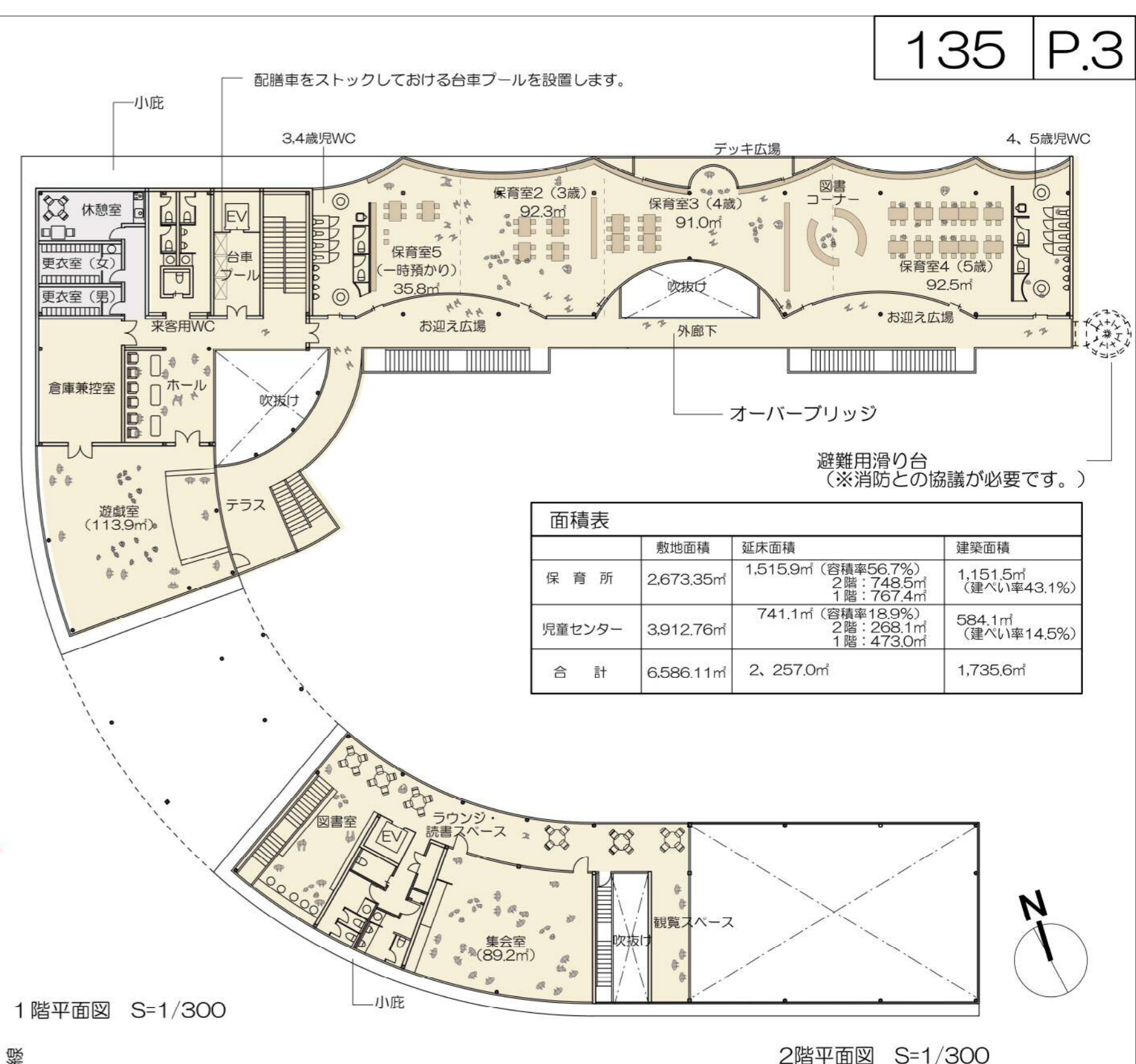
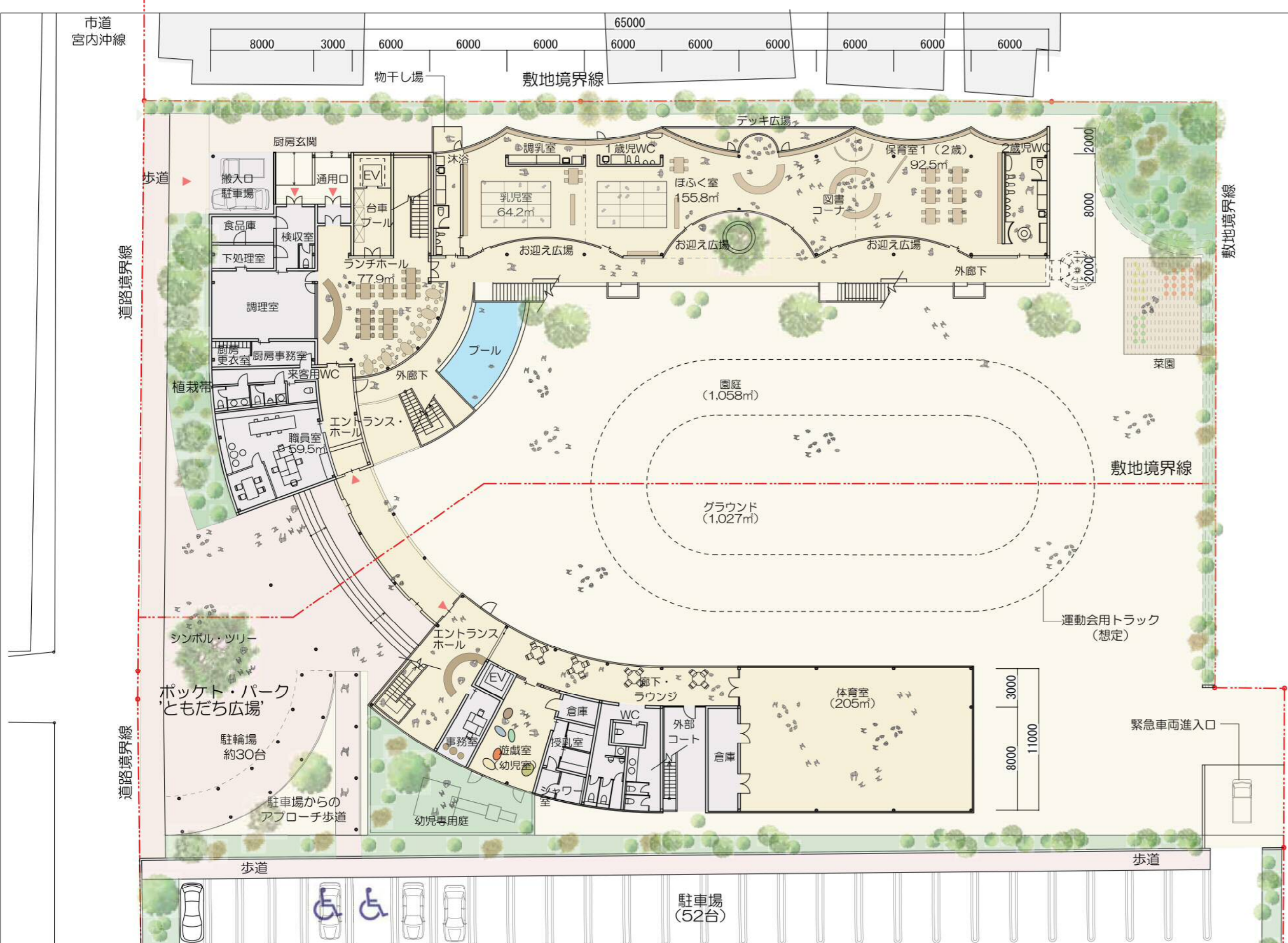
管理しやすく、見通しのきく施設

- ・保育園の職員室は、クラスルーム、園庭のすべてが見える位置に配置しています。

一体感を演出する大屋根デザイン

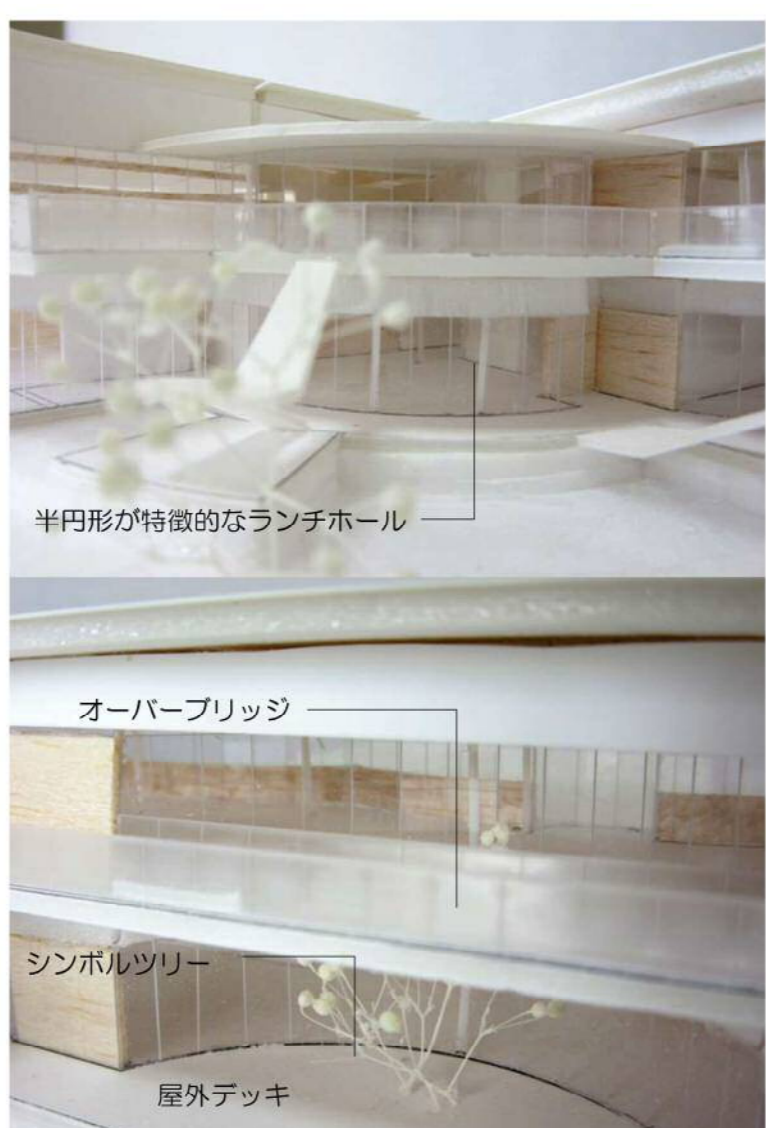
- ・2棟をつなぐ大きな屋根が、それぞれの施設としてではなく、2棟に一体感を生み出します。保育園遊戯室、図書コーナー上部の2箇所に頂点を持つ屋根のカーブ・ラインは、外壁の曲面ラインと相まって、子どものための施設らしい、やわらかく、やさしい印象を生み出します。





多様な保育を実践できる設備とします。
ランチホールを提案します。

- 調理室と隣接した場所に、ランチホールを提案します。60名程度が定員の大きさのホールですが、園児自らが、配膳、調理に参加できるよう、こども用のキッチン等を整備し、食育の実践を可能とします。厨房もできるだけ見えるようにし、こどもたちが食事に興味を持てるよう配慮します。また、早い時間の少人数の時や、延長保育等で少人数となった場合には、職員室にも近いランチホールにて全員をまとめて保育する事も可能となります。1階の扇の要のような場所のランチホールならば、外の景色もよく見え、滞在時間の長くなってしまったこどもたちの寂しさを少しでもまぎらわせる事が可能ではないかと考えます。



半屋外のデッキ空間を提案します。

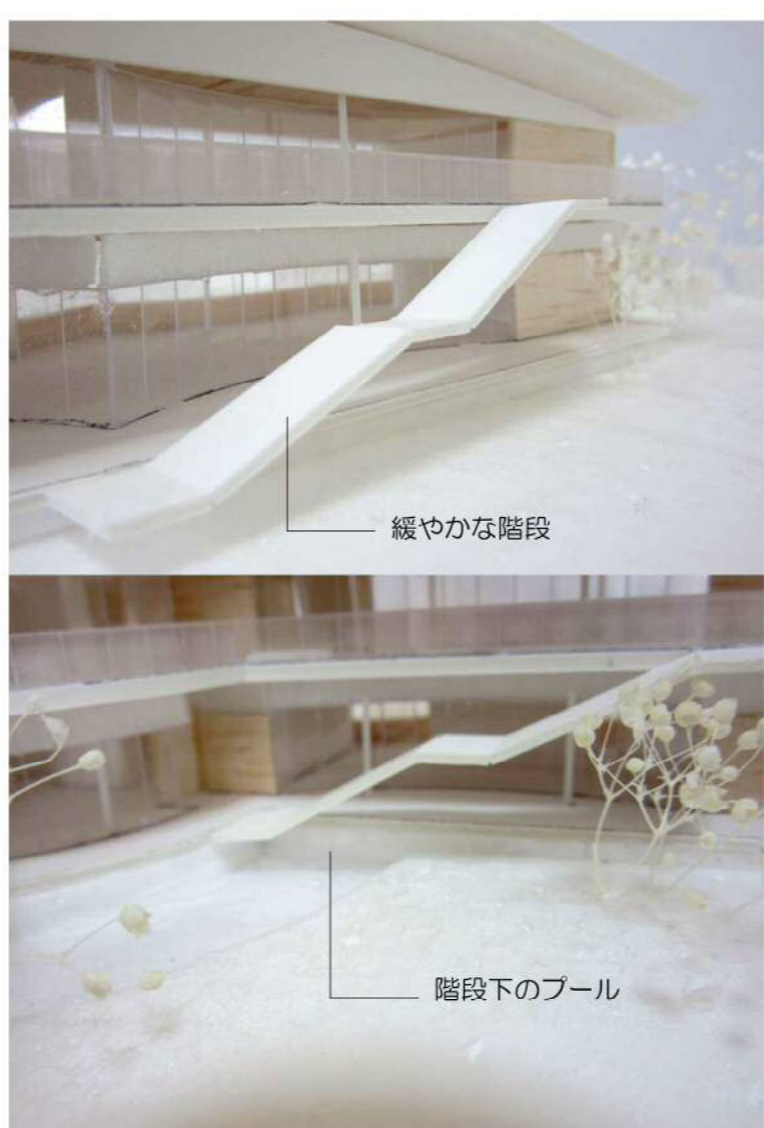
- 各クラスルームの出入り口部分には、外廊下が円弧状に膨らんだお迎え広場を計画します。園児の受け渡しはもちろん、屋根付きであるので、内・外の区別があいまいとなり、多様な外遊びの場となります。1階中央のお迎え広場のみ大きく窪ませ、シンボルツリーを配して、低年齢園児の安全な外遊び場となります。2階中央のお迎え広場は、吹抜けており、オーバーブリッジ部分では、上下階でコミュニケーションがはかれます。

こども目線で安全な建物とします。
階段の蹴上は日土小を参照し、ゆるやかなものとする。

- 日土小学校の階段は非常に緩やかなものでした。110mm前後の寸法ですが、今回計画でも、こどもに配慮した緩やかな勾配の階段を計画します。

園児の年齢に合わせたトイレ計画とします。

- トイレも排泄の習慣を身につける大切な場所と考えます。年齢に合わせたトイレを計画します。1, 2歳児: 保育士がサポートしやすいよう、ゆったりとしたつくりにします。沐浴等ができるようにします。3歳児: プースで仕切り、排せつの習慣づけが行えるようにします。4, 5歳児: 園外でのトイレ利用を考慮し、和式便器の設置を検討します。また、大人用のブースも併設しており、大人用でのトイレの練習も可能です。職員用トイレは、園児トイレの中に大人用を併設する計画としています。



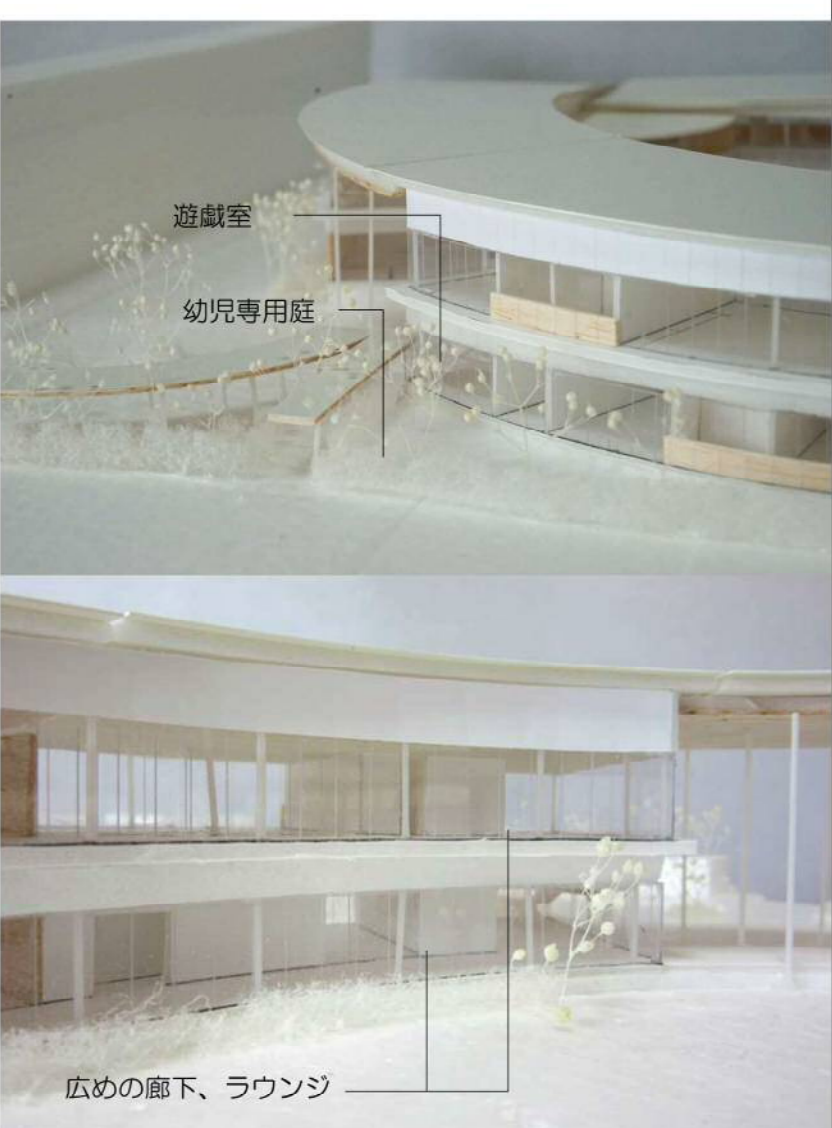
プールは職員室に近い場所とします。
 ・プールは固定式の設備を想定しています。職員室に近い場所とし、万が一の事故にもすぐに対応できる位置とします。階段下の部分にも水があり、アトラクション的な楽しいプールとします。

児童センターについて
廊下を広めに計画し、ラウンジの機能を持たせます。

- 1階はラウンジ、2階はラウンジ兼読書、勉強コーナーとして計画します。グラウンドが見渡せて気持ちの良い場所となります。

遊戯室+幼児専用庭

- 遊戯室(幼児室)には、すぐ外に出られて外遊びのできる幼児専用庭を計画します。外周を囲まれた、幼児専用の庭です。また、遊戯室に面して、授乳室、シャワー室を設置し、幼児とお母さんが安心して遊べる施設とします。



体育室

- 体育室は2層吹き抜けとし、天井高さ約7mを確保しています。一般的な屋内運動場仕様とし、2階部分には観覧スペースも整備しています。

集会所

- 集会所は、2階に設置し、料理教室他の用途として想定しています。多目的な用途の部屋ですので、2階にも身障者用WCとEVを計画しました。